

▼ピーゼットシー糖衣錠 [内]・▼ピーゼットシー筋注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 ペルフェナジン塩酸塩 perphenazine hydrochloride 【分類】 精神神経安定剤 [フェノチアジン]

【単位】 ▼2mg・▼4mg・▼8mg/錠, ▼2mg/A [1mL]

【常用量】 ■6～24mg/日 [精神科領域：6～48mg/日] ■1回2～5mg 筋注

【用法】 ■経口分割投与■筋注

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 クロロプロマジン誘導体の抗精神病薬, 統合失調症, 術前・術後の悪心・嘔吐, メニエル症候群 (眩暈, 耳鳴) に用いられる。

【主な副作用・毒性】 悪性症候群, 突然死, 無顆粒球症, 白血球減少, 麻痺性イレウス, 遅発性ジスキネジア, 眼障害, SLE 様症状, 肺塞栓症, 深部静脈血栓症, 血圧降下, 頻脈, 血球減少, 肝障害, 消化器症状, パーキンソン症候群, 縮瞳, 視覚障害, 女性化乳房, 不眠, 眩暈, 頭痛, 過敏症状, 光線過敏症, 口渇, 鼻閉, 倦怠感など多数。

【安全性に関する情報】 自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させない。嘔吐症状を不顕性化する可能性。中毒症状は、傾眠から昏睡までの中枢神経系の抑制, 血圧低下と錐体外路症状で, その他, 激越と情緒不安, 痙攣, 口渇, 腸閉塞, 心電図変化及び不整脈等があらわれる可能性がある (1)

【代謝】 CYP2D6 で代謝 (1) 主要代謝物はグルクロン酸抱合体次いでスルホキシド (1) CYP2D6 の多型の影響を受ける (Dahl-Puustinen ML, et al: Clin Pharmacol Ther 46: 78-81, 1989)

【排泄】 尿中回収率 44% [po] (1)

【CL】 107L/hr [iv] (1) 経口クリアランスにはCYP2D6の多型が影響 (Jerling M, et al: Clin Pharmacol Ther 59: 423-8, 1996) CL/F=483L/hr で, 喫煙者で大きい (Jin Y, et al: J Clin Pharmacol 50: 73-80, 2010)

【t1/2】 資料なし (1)

【蛋白結合率】 資料なし (1)

【Vd】 20.2L/kg [iv] (1) Vd/F=18200L/man (Jin Y, et al: J Clin Pharmacol 50: 73-80, 2010)

【MW】 476.89

【透析性】 資料なし (1) 物性から考えると除去されないと思われる (5)

【O/W 係数】 3400 [1-オクタノール水系, pH7] (1) 【TDM のポイント】 治療濃度 2～3nmol/L (1) CYP2D6 の PM では血中濃度が 2 倍に上昇 (1) TDM が有用である可能性 (Thomsen K, et al: Ugeskr Laeger 155: 2443-8, 1993 [abstract])

【相互作用】 アドレナリンの血圧反転 (1) 中枢神経抑制剤と併用注意 (1)

【更新日】 20191127

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。